

三重県政記者クラブ・田原市政記者
クラブ・鳥羽志摩記者クラブ同時発表

平成22年6月4日（金）
愛知県地域振興部交通対策課
エコモビリティライフ推進グループ
担当 柴山、竹澤 内線 2384,2385

第3回鳥羽伊良湖航路対策協議会の結果概要について

平成22年6月4日（金）午後2時から三重県勤労者福祉会館において開催した第3回鳥羽伊良湖航路対策協議会の結果概要については、下記のとおりです。

記

- 1 日 時 平成22年6月4日（金）午後2時から午後4時まで
- 2 場 所 三重県勤労者福祉会館
- 3 出席者 別紙「出席者名簿」のとおり
- 4 内 容 別添「結果概要」のとおり

○第3回鳥羽伊良湖航路対策協議会出席者名簿

所属	役職	名前	備考
中部運輸局企画観光部	部長	森 勝彦	
中部運輸局海事振興部	部長	水谷一之	
中部地方整備局企画部	事業調整官	花木道治	代理
愛知県地域振興部	部長	山田周司	副座長
愛知県産業労働部	立地観光監	伊藤雅則	代理
愛知県建設部	技監	澤田弘二	代理
三重県政策部	部長	小林清人	座長
三重県農水商工部観光局	局長	長野 守	
三重県県土整備部長	部長	北川貴志	
田原市	市長	鈴木克幸	
鳥羽市	市長	木田久主一	

* 順不同

第 3 回鳥羽伊良湖航路対策協議会の結果概要

(1) 航路が廃止された場合の影響について

○鳥羽伊良湖航路の現状及び廃止による影響について事務局から報告

【航路の現状について】

- ・平成 21 年度に利用した総旅客は約 35 万人であり、平成 6 年度のピーク時の約 116 万人から約 7 割の減少となっている。方向別にみると、鳥羽から伊良湖への航送が多くなっている。

	鳥羽⇒伊良湖	伊良湖⇒鳥羽	合 計
総旅客	190,909 人	162,012 人	352,921 人

- ・地域別にみると、関東や静岡県からの利用が多く、乗用車、バスともに半数前後を占めている。

	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
乗用車	愛知県 (27.0%)	静岡県 (26.7%)	関東 (20.5%)	三重県 (12.9%)	関西 (7.8%)
バス	関東 (41.3%)	静岡県 (12.9%)	愛知県 (10.7%)	インバウンド等 (10.2%)	関西 (8.5%)

※乗用車はナンバー、バスは利用団体の所在地等で集計。

【航路の廃止による影響について】

- ・別紙のとおり。

(2) 航路存続のための対応方策について

- 伊勢湾フェリー株式会社による経営改善策や近鉄・名鉄の意向、国への新たな支援制度の創設提言等について意見交換し、航路存続について検討。
- 愛知県、三重県、田原市、鳥羽市の 2 県 2 市として、今後、伊勢湾フェリー株式会社の株主である近畿日本鉄道株式会社及び名古屋鉄道株式会社に対して、航路存続に向けた要望活動を実施していくことを確認。

鳥羽伊良湖航路の廃止による影響について

1 観光

○ 鳥羽・伊良湖間の航路を利用した周遊観光の喪失による観光客や宿泊者の減少

- ・鳥羽伊良湖航路の総旅客 35 万人（H21）のほとんどが観光目的。
- ・伊勢志摩の「海の玄関口」、渥美半島の「西の玄関」の喪失。
- ・伊勢湾の景観を楽しむ観光資源の喪失。
- ・外国人観光客誘致戦略としても、同航路を活用した観光商品の造成ができなくなり、観光地としての魅力の減少。

2 物流

○ 水産・海産物や工業用資材、農畜産物の輸送手段の喪失

- ・平成 21 年度のトラックの航送台数は、4,774 台
- ・水産・海産物
三重県の業者が、東京の築地市場への出荷に利用（鳥羽 ⇒ 伊良湖）
- ・工業用資材
愛知県の業者が、伊勢地方の工場への資材輸送時の帰路に利用（鳥羽 ⇒ 伊良湖）
- ・農畜産物
愛知県や静岡県畜産業者が伊勢地方から孵化用卵の仕入時に利用（鳥羽 ⇒ 伊良湖）
田原市内のスイカ農家が伊勢地方への出荷に利用（伊良湖 ⇄ 鳥羽）
- ・また、陸路へ転換すれば、運転手の労働環境の悪化も懸念される。

3 雇用

○ 伊勢湾フェリー一株からの離職者の発生、及び宿泊施設や観光施設等の関連産業における雇用環境の悪化

4 地球温暖化の防止

○ 地球温暖化の防止に有効なモーダルシフトの手段の喪失

5 代替輸送手段

○ 災害時等の避難住民の輸送や緊急物資の運送手段の喪失

6 地域づくり・地域間交流・連携

○ 鳥羽市や田原市の地域づくりへの影響

○ 地域間交流の衰退

- ・田原市と伊勢・鳥羽・志摩地域で、毎年、年 2 回、実施されている少年野球
- ・三河地方の絹糸を伊勢神宮に奉獻する「お糸船（おいとせん）」

○ 環伊勢湾地域の連携基盤の喪失